

『インターンシップ研究年報』第25号 研究論文・資料等投稿規程

(2021年11月1日更新)

『インターンシップ研究年報』第25号に投稿する「研究論文」及び「資料等」は、次の規程に従うものとする。

1. 「研究論文」及び「資料等」の投稿者は、以下の者であること。
 - i. 日本インターンシップ学会の会員であり、2021年度の会費を2022年1月20日までに納入していること。
 - ii. 共著の場合、全員がi.を満たしていること。
 - iii. ただし、年報編集委員会から投稿を依頼した場合はこの限りではない。
2. 投稿者は、それぞれ(1)「研究論文」(「論文」、「研究ノート」)、(2)「資料等」(「資料」、「活動紹介」、「書評」、「その他」)に当初から分けて、投稿すること。
3. 「研究論文」及び「資料等」は、以下であること。
 - i. 他の学術雑誌に発表されたことがない、未発表のものであること。
 - ii. 他誌へ投稿中の論文等または投稿する予定のある論文等でないこと(二重投稿の禁止)。
 - iii. 研究倫理を遵守し、執筆すること。
 - iv. 調査研究の場合は、調査対象者のプライバシーの保護を最大限尊重し、調査対象者が特定されないよう配慮するなど適切な予防策を講じること。
4. 使用言語は日本語とする。
5. 「研究論文」を投稿する場合には、「拙著」「拙稿」などの表現や、研究助成、共同研究者への謝辞など、投稿者名が判明もしくは推測できるような表現は避けること。ただし、必要な場合は、採択決定後に加筆することができる。
6. 原稿は、次の点を厳守し、作成すること。
 - i. 原則として、パソコンのワープロで作成することとする。アプリケーションはMS-WORDで作成することが好ましい。
 - ii. 和文の場合、句点は全角の「。」(マル)、読点は全角の「、」(テン)を、英文ならびに引用等で用いる欧文の場合、句点は半角の「.」(ピリオド)、読点は半角の「,」(カンマ)を、使用する。

- iii. タイトル、氏名、所属、要旨、キーワード、図、表、注、参考文献を含めて、A4判横書きで、ページ数は、次のとおりとする。ただし、年報編集委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。
 - ①「研究論文」4ページ以上8ページ以内
 - ②「資料等」2ページ以上8ページ以内
- iv. 次項以降特に指定がない場合、文字は、MS明朝(欧文の場合はTimes New Roman)、10ポイント、とする。欧文は、半角文字を使用する。数字は、半角文字のアラビア数字を使用する。
- v. 本文は2段組で、1頁を24字×50行×2段=2,400字とする。余白は、左右、上下20mmとする。ただし、第1ページのレイアウトについては、別項で指示する。
- vi. 第1ページは、第1行目から、タイトル、英文タイトル、氏名(所属)、要旨、キーワード(5つまで)、の順に、1段組で記載する。タイトルは、MSゴシック(英文タイトルはTimes New Roman)、12ポイントで、中央揃えとする。タイトルの次行に、氏名と所属(かっこ付)を右詰めに書く。要旨は、氏名(所属)の後に1行空けて、600字以内で記載する。
- vii. 本文の章立ては、章、節、項目の3分類を原則とし、MSゴシック、10ポイントで左詰めとする。章は、全角文字のアラビア数字、節、項目は、半角のアラビア数字を使用する。
(例) <章> 1.、2.、3.、…
<節> 1-1.、1-2.、…
<項目> (1)、(2)、…
- viii. 文体は「・・・である」調の記述とする。
- ix. 文献を示す割注の提示は、以下の例に従い、原則として、著者の姓、出版年、始頁、終頁の順に記載する。翻訳文献を示す場合には、著者の姓、原典出版年、翻訳出版年、始頁、終頁の順に記載する。
(例) 「……という指摘がある(吉本2008、McIntyre and Hagger 1992)。」
「館(2006)によれば、…」
「…と定義されている(Becker 訳書1976)。」
- x. 注は、原稿の中の該当箇所(注1)、(注2)のように、MS明朝、8ポイントで表記し、原稿末尾にまとめて記載する。なお、注と参考文献の両方がある場合は、注、参考文献の順に、MS明朝、8ポイント、左詰めで記載すること。参考文献は、まず邦文を五十音順で記載し、次に欧文をアルファベット順に記載する。参考文献には、本文または注で触れた文献のみを記載する。
- xi. 参考文献は、以下の例に従って記載する。

< 図書の場合 >

著者名、発行年、書名、出版社名の順に記載する。

(例) 館昭 (2006) 『原点に立ち返っての大学改革』 東信堂

高良和武 (監修)、石田宏之、太田和男、古閑博美、田中宣秀 (編) (2007) 『インターンシップとキャリア-産学連携教育の実証的研究』 学文社

Green, M. E. (1997), "Internship Success", VGM Career Horizons

< 論文の場合 >

著者名、発行年、論文名、雑誌名、出版元、巻号、ページの順に記載する。

(例) 吉本圭一 (2006) 「インターンシップ制度の多様な展開とインターンシップ研究」 『インターンシップ研究年報』 第9号、日本インターンシップ学会、38-44頁

(例) McIntyre, D. and Hagger, H. (1992) "Professional Development through the Oxford Internship Model", British Journal of Educational Studies, vol.40, No.3, pp. 264-283

< 翻訳書・論文の場合 >

原典書誌情報 (図書・論文の場合に準ずる) の後に、 (= 翻訳出版年、訳者名訳、図書・論文名、出版社名) を記載する。

(例) Becker, G. S. (1964), Human Capital: A Theoretical and Empirical Analysis, with Special Reference to Education, University of Chicago Press. (=1976, 佐野陽子訳『人的資本-教育を中心とした理論的・経験的分析-』 東洋館出版社)

< 新聞記事、雑誌、辞典など >

可能な限り、上記文献記載方法にしたがい、執筆者名がわかる場合は記事名の後に執筆者を、新聞記事の場合は掲載年月日を追加する。

< ウェブサイトから引用する場合 >

可能な限り、上記文献記載方法に従い、末尾に URL と最終アクセス日を () 内に記載する。

- xii. 図表を使用する場合は、図や表の標題の頭に、図、表の別に通し番号をつける。表題は MS ゴシック、10 ポイント、番号のみ半角文字を使用し、表の場合は表の上に、図の場合は図の下に、それぞれ中央揃えで記載する。出所、注記は、図表の下に付記する (オリジナルの図表の場合

は、出所を記さない)。

(例) 図1、表1、図2、図3、表2、表3、...
なお、図表は白黒で作成するのが望ましい。

xiii. 年号の表記は原則として西暦とする。但し、引用文献・論文などの資料名については、元号 (昭和、平成など) で記入されている時には、それを用いること。

xiv. 明らかな誤字、脱字、余字、熟語など用語の統一については、編集委員会で修正する場合があるので、留意すること。

7. 締切日は2022年1月20日とする。

8. 原稿は、投稿者 (共同執筆の場合は代表者) が、原則として電子メールに電子ファイルを添付して、投稿者の連絡先 (住所、電話番号、メールアドレス) と共に、下記メールアドレスへ送信すること。

< 送信先 >

日本インターンシップ学会 年報編集委員会
E-mail : jsi-bec@js-internship.jp

9. 原稿は返却しない。

10. 「研究論文」として採択された場合には、本文とは別に、英文で、タイトル、氏名、所属、アブストラクト、キーワードを、また、「資料等」として採択された場合には、本文とは別に、英文で、タイトル、氏名、所属を記載したものを作成し、編集委員会で指定した期日までに、7. の送信先へ電子ファイルで提出すること。タイトル中の名詞は、冒頭を大文字にする。アブストラクトは200~300語とする。ネイティブチェックは投稿者の責任でおこなうこととする。

11. 掲載予定の「研究論文」及び「資料等」の取り扱いについては、投稿時点で次のことを承諾したものとみなす。

- i. 著作権については、本学会に帰属する。
- ii. 著作者自身が、自己の著作物を利用する場合には、本学会の許諾を必要としない。
- iii. 採択された「研究論文」及び「資料等」は国立研究開発法人科学技術振興機構科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE) 等に公開される。